

「当社における鉄道貨物輸送の 現状について」

2024年8月8日

雪印メグミルク株式会社
広域ロジスティクスセンター
新美 倫昭

目次

I	北海道工場について	
I - 1	道内工場の立地	3
I - 2	代表的な道内工場生産品	4
II	北海道～本州の輸送実態について	
II - 1	北海道から本州への輸送（冷蔵・冷凍）	6
II - 2	北海道から本州への輸送（常温）	7
II - 3	常温品のエリア別構成比	8
II - 4	常温品は鉄道貨物輸送が94.3%	9
III	鉄道貨物輸送について	
III - 1	鉄道貨物輸送は必要不可欠	11
III - 2	今後の鉄道貨物輸送に期待すること	12
IV	まとめ	14

I 北海道工場について

II 北海道～本州の輸送実態について

III 鉄道貨物輸送について

IV まとめ

I -1. 道内工場の立地



I -2. 代表的な道内工場生産品



	家庭用	業務用
冷蔵・冷凍		
常温		

鉄道貨物輸送対象の製品群

I 北海道工場について

II 北海道～本州の輸送実態について

III 鉄道貨物輸送について

IV まとめ

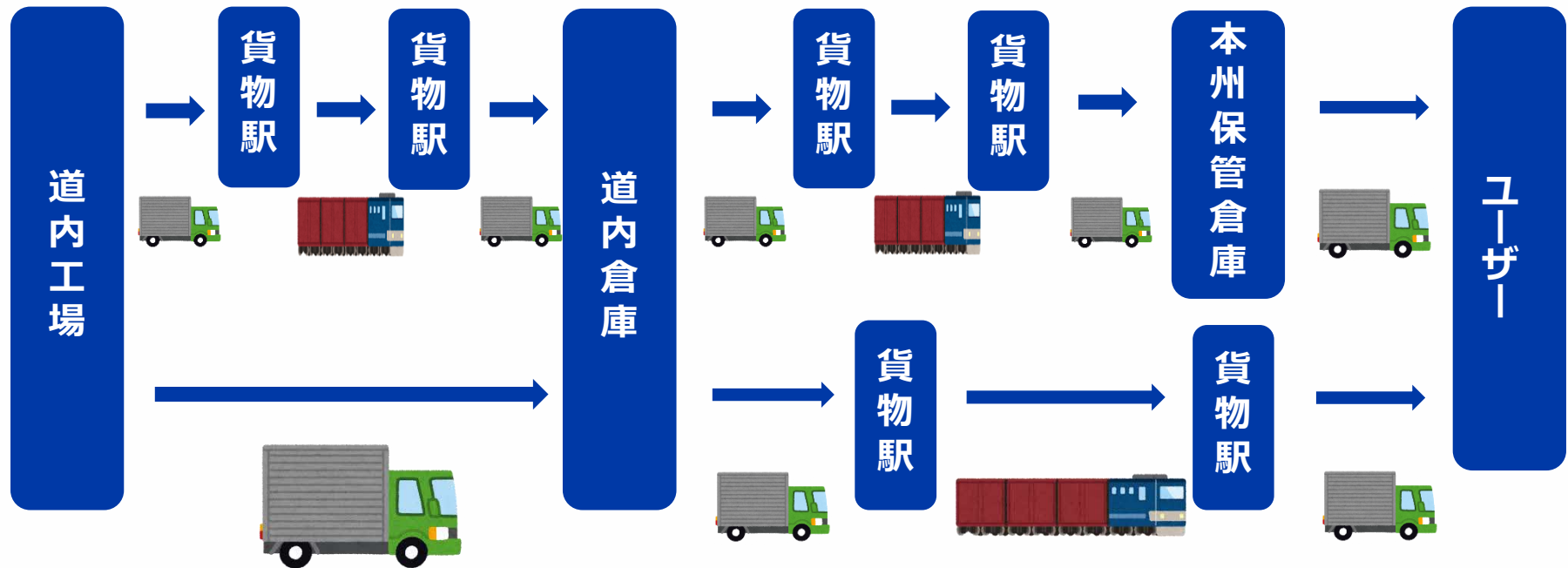
Ⅱ-1. 北海道から本州への輸送（冷蔵・冷凍）



使用航路

- ・ 関東倉庫 : 苫小牧～常陸那珂・大洗
- ・ 関西倉庫 : 釧路～大阪南港、苫小牧～敦賀・舞鶴

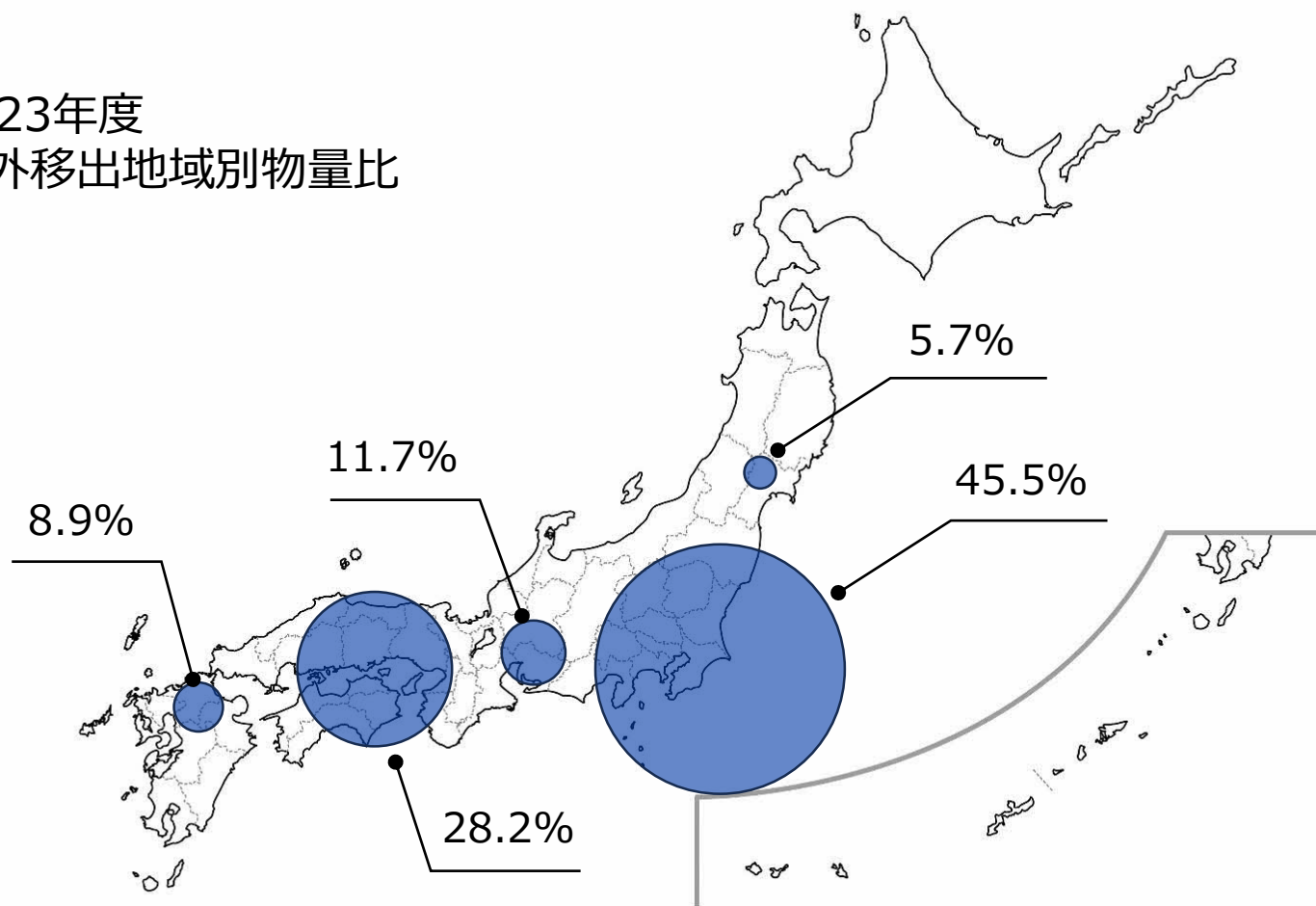
Ⅱ-2. 北海道から本州への輸送（常温）



使用貨物駅（道内）：札幌貨物、釧路貨物、帯広貨物、函館貨物、
北旭川、名寄

Ⅱ-3. 常温品のエリア別構成比

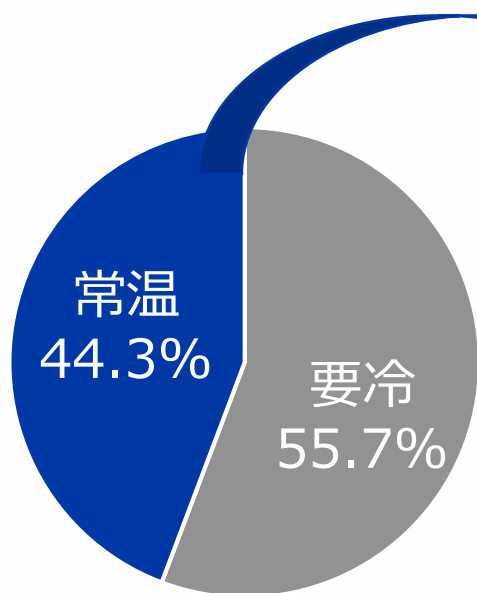
2023年度
道外移出地域別物量比



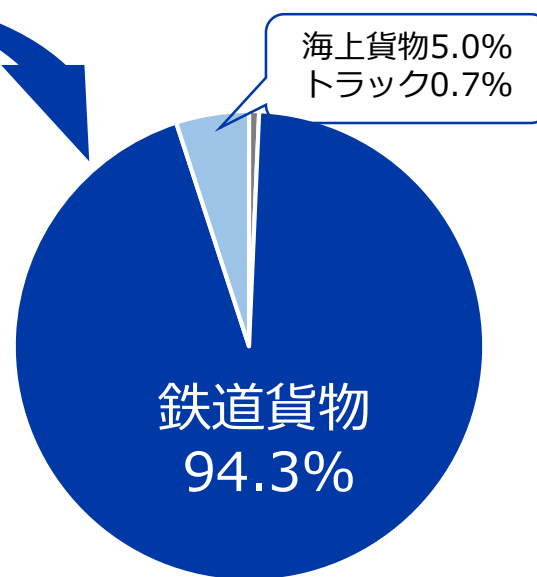
大消費地への輸送が多くなっている。

Ⅱ-4. 常温品は鉄道貨物輸送が94.3%

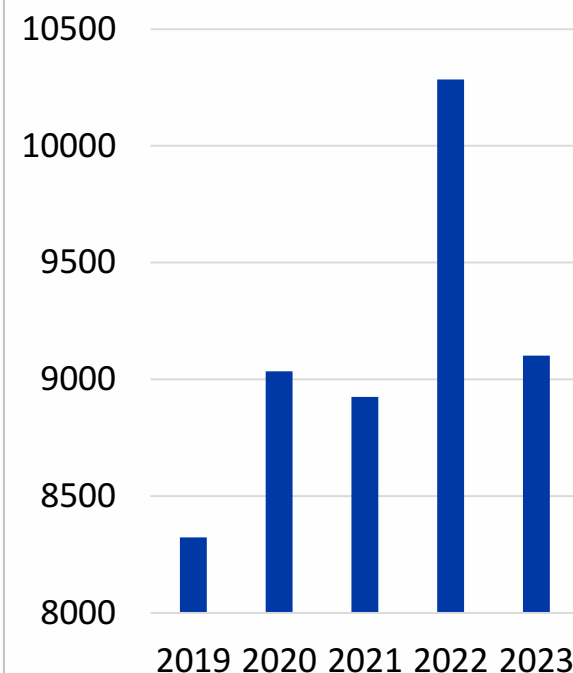
2023年度温度帯別
道外移出重量構成比



2023年度常温品輸送形態別
道外移出重量



年度別鉄道貨物による
常温品道外移出基数



道外移出の44.3%が常温品であり、
その94.3%（年9,000基以上）が鉄道貨物輸送となっており、
必要基数は年々増えている。

I 北海道工場について

II 北海道～本州の輸送実態について

III 鉄道貨物輸送について

IV まとめ

Ⅲ-1. 鉄道貨物は必要不可欠



もしも鉄道貨物がなくなったら・・・

1. トラックの確保が困難

- ・当社鉄道貨物輸送をすべてトラックに切り替えた場合…

※ 1

2,500台/年 必要

3. 陸上輸送距離の延長

- ・トラック輸送に切り替えることで、出荷から納品までの陸上輸送距離が…

※ 2

540 km/回 増加

5. 輸送費用の増加

- ・陸上輸送距離が増えることによる輸送費用の増加が見込まれる…

輸送費用 **大幅増加**

2. フェリー枠の確保が困難

- ・必要となるフェリー枠も大幅増…

関東向け

関西向け

1,600枠/年 900枠/年

4. CO2排出量の増加

- ・トラック輸送 1 トンキロ当りのCO2排出量は…

貨物車（営業用） : 216
船舶 : 43
貨物鉄道 : 20

※ 3

約11倍

※ 1. 当社 常温品の年間輸送重量を、トラック 1 車に 18 トン積載したものとして算出。

※ 2. 代表的な納品先までの輸送距離から算出。

※ 3. 国土交通省HP「環境面から見た貨物鉄道輸送」輸送機関別のCO2排出量原単位を参照。
単位：g-CO2/トン・km

Ⅲ-2. 今後の鉄道貨物輸送に期待すること

1. パレット輸送に適したコンテナ内設備の強化

- ・ T 1 1 型パレットでは前後に36cm程度の隙間が出来るため緩衝材を使用しなければ荷崩れのリスクがある。（緩衝材使用による費用増）

⇒パレットを動かないようにするための固定装置の導入



2. 冷蔵コンテナの基数増加

- ・ 冷蔵コンテナの絶対数が少ないため、冷蔵品の安定輸送に不安がある。コンテナ数の増加により冷蔵品輸送の検討につながる。

※青函トンネル内での冷凍機電源OFFによる品質面での懸念あり

3. リードタイムの短縮

- ・ トラック輸送に比べ輸送リードタイムが長い。

【当社：北海道～本州間 輸送リードタイム】

トラック ： D+ 2 ～D+ 4 J R コンテナ ： D+ 4 ～D+ 7

I 北海道工場について

II 北海道～本州の輸送実態について

III 鉄道貨物輸送について

IV まとめ

IV. まとめ

1. 当社常温輸送の現状

北海道～本州間において、常温輸送の9割以上を鉄道貨物が担っている。

2. 鉄道貨物は当社に大きく貢献

環境負荷低減、物流費低減に大きく貢献している。

3. 当社の考え

北海道～本州間の輸送において、鉄道貨物は必須と考えている。